

AED 講習会

2013年最初のAED講習会を1月16日に東大阪工場の3階で行いました。前回と同様に、東大阪消防局の方々に来ていただき普通救命講習を実施していただきました。

舞台課、営業企画課、企画デザイン課、設計技術監理課含めて13人が講習を受けました。今回のAED講習会で大阪の社員の約62%が普通救命講習を受けております。まずは社員全員となる100%を目指しつつ、全員が2回目を受講できるように200%以上になるまで講習会を続けていきます。



人形にパッドが貼られています。今度もありがとうございました。



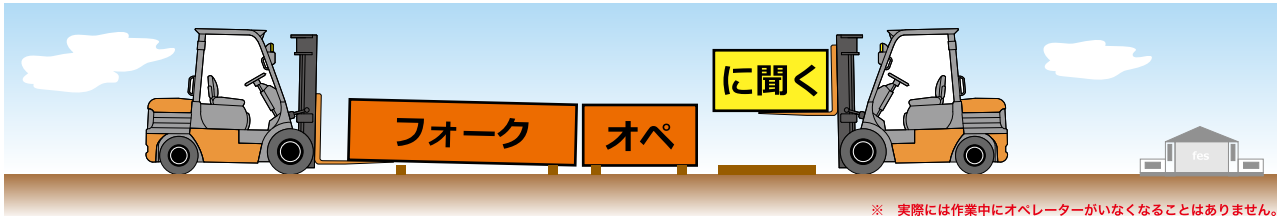
心臓マッサージを行っている数本氏とAEDを起動させている木原氏



みんなで止血方法を聞いています。



子供用の人形で心臓マッサージの練習。



※ 実際には作業中にオペレーターがいなくなることはありません。

● フォークオペとは

一言で言えば、フォークリフトを使用し機材を運ぶ人です。

近年のコンサートステージでは、規模も大きくなってきており、またアリーナ規模でも部材が多くなり部材の重量も増えてきています。こういった現状では、フォークオペがいなければ施工できない現場が増えてきています。ただ、その分フォークの頻度が高くなれば、フォークでの事故も増えてきます。

その当りも踏まえて、今回は大阪の現場で主にフォークオペとして活躍されている株式会社 Bears 代表取締役社長の 大原 竜氏にアンケートという形でインタビューさせていただきました。

NS: フォークオペとして入った当初は、現場になれていない部分もあり、事故が多かったと思うのですがその当時はどの様に感じておられましたか。

大原氏: 当時は仕事の内容も理解していませんでしたし、この業界自体のルールというか明確ではない部分が多分分からず不安だったので覚えています。それに現場でのコミュニケーションが取れず分からない事に関して分からないまま先延ばしの状況が続いていたと思います。

NS: 最近では劇的に事故が少なくなっていますが、どの様に改善されていったのでしょうか。

大原氏: 僕はまず人員の固定と教育が必要だと感じました。少しでもフォークリフトの知識、現場での流れ、取り扱う商品の知識などが分かってくれば不必要な動きや不安は劇的に減るものです。次に実際に乗り、作業の流れに入らせる。まずは片付けなど余裕をもってできることから始め、徐々に段取りするところまで作業範囲を広げさせていきます。そこまでやって他の人とコミュニケーションが取れていれば、ある程度任せられるように感じています。

NS: フォークリフトに関して、留意してきた点を教えてください。

大原氏: 知識と技量 この二つをもって自社としてしっかりとした教育と判断ができるかどうかだと思ってます。それが最低限ないとコミュニケーションも無意味なものとなってしまいます。

NS: 最後に何か一言いただけますか。

大原氏: フォークオペについて記事にさせていただき本当に有難く思います。ここからもう一歩先へフォークリフトの安全を考える取り組みや意見交換が出来れば、より一層現場での安全意識の個々の結び付きが育まれると思っています。

NS: お忙しい中インタビューにご返答いただきありがとうございます。

インタビューを受けてどんな部門で働いていても知識とコミュニケーションが必要ということを改めて感じました。我々も安全という知識をお送りし、SafetyNEWSを通じてコミュニケーションがもっととれるよう努めていきます。

告知 1

4月上旬、東大阪工場にて勉強会を行ないます。

実際に経験し作業に携わっている各部署のメンバーが行ない、実践的な知識、技術を経験部署に関係無く学んでいきます。

- ・営業部・デザイン課 マナー講習
 - ・舞台技術部 3S講習もしくは電気講習
 - ・製作部 電気工具取扱い講習
- 以上を予定しております。(内容の変更、追加の可能性有り)

勉強会の内容・風景は SafetyNEWS 5月号に掲載致します。

告知 2

2月28日に東大阪事業所で下記の破壊試験を行いました。

- ・300角トラス強度確認試験
1本物のトラスに中央集中荷重をかけた場合とジョイントしたトラスに中央集中荷重をかけた場合の強度を体感する。
- ・鉄平台コンパネ貫通試験
・単管ならびにクランプの強度を体感する。

続いて、4月にも東大阪事業所で破壊試験を行います。

試験の内容・風景は合わせて SafetyNEWS 5月号に掲載致します。